

<資 料 提 供>
令和元年5月31日(金)
生活環境部自然環境課
(内線 4260 外線 225-1475)
いしかわ動物園
(外線 0761-51-8501)

いしかわ動物園のライチョウの産卵について

1 概要

5月31日(金)夕方、いしかわ動物園で繁殖に取り組んでいるライチョウのペア(オス2歳、メス1歳)による、いしかわ動物園における初めての産卵が確認されました。

2 今後の予定

今回産卵した卵は、今後、概ね1日おきに産卵される卵とあわせてふ卵器で人工ふ化に取り組めます。

順調にいけば、ふ卵器に入卵してから3週間程度でふ化します。

3 その他

今回は、親鳥を刺激して今後の産卵に影響が出ないように、写真撮影を控えております。今後、繁殖の状況をみながら、随時写真を提供していく予定です。

<参考1>国の取組の概要

(1) ライチョウの種の保存の取組

環境省が平成24年度に策定した「ライチョウ保護増殖事業計画」に基づいて、環境省と連携して公益社団法人日本動物園水族館協会において取組が開始され、平成25年度には「ライチョウ域外保全プロジェクトチーム」を設置。

※いしかわ動物園も当初からPTに参加し、ライチョウの種の保存の取組みに貢献してきた。

(2) ライチョウの飼育・繁殖の取組

ライチョウの飼育・繁殖を目的に、環境省事業として、平成27～28年度の2か年にわたり、乗鞍岳において野生下の22卵の採卵を行い、恩賜上野動物園、富山市ファミリーパーク、大町山岳博物館の3施設でふ化・飼育の取組を開始。

(3) 人工繁殖の開始

平成29年度から上記3施設での人工繁殖を開始し、産卵が順調に進んだことから、いしかわ動物園及び那須どうぶつ王国が新たにライチョウ飼育施設に選定され、受精卵を移動してふ化・飼育する取組を開始。

平成30年度は、(2)の3施設に那須どうぶつ王国を加え、4施設で人工繁殖に取り組みました。

<参考2>いしかわ動物園でのライチョウの種の保存への取組み

- ・H21年6月 白山で約70年ぶりにライチョウ(メス)を確認)
- ・H21年11月 第10回ライチョウ会議(東京)で、近縁亜種(スバルバルライチョウ)を使って飼育繁殖技術の確立に努めることが宣言されたことを契機に上野動物園から近縁亜種共同繁殖の要請
- ・H22年9月 ライチョウ飼育展示施設の着工
- ・H22年11月 上野動物園からスバルバルライチョウのオス2羽借受 飼育開始
- ・H23年4月 ライチョウ飼育展示施設「ライチョウの峰」のオープン 一般公開開始
- ・H24年6月 国内3園目となるスバルバルライチョウのヒナ誕生
- ・H25年7月 国内2園目となるスバルバルライチョウの自然繁殖に成功
※平成31年2月現在、スバルバルライチョウ12羽(オス6羽、メス6羽)を飼育中
- ・H29年6月 全国で4番目のライチョウ飼育施設に選定
ライチョウの受精卵2卵を受け入れ、1卵が発育中止、1卵がふ化(ふ化後4日齢で死亡)
- ・H29年7月 ライチョウの受精卵2卵を受け入れ、2卵とも発育中止
- ・H30年6月 ライチョウの受精卵3卵を受け入れ、3卵すべてふ化(現在まで順調に成育)
- ・H30年12月 H31春からライチョウの繁殖に取り組むため、メスの成鳥を受入れ
- ・H31年3月 H31春からライチョウの繁殖に取り組むため、オスの成鳥を受入れ
「ライチョウの峰」にてライチョウ一般公開開始(15日)
- ・H31年4月 繁殖の取組を開始